

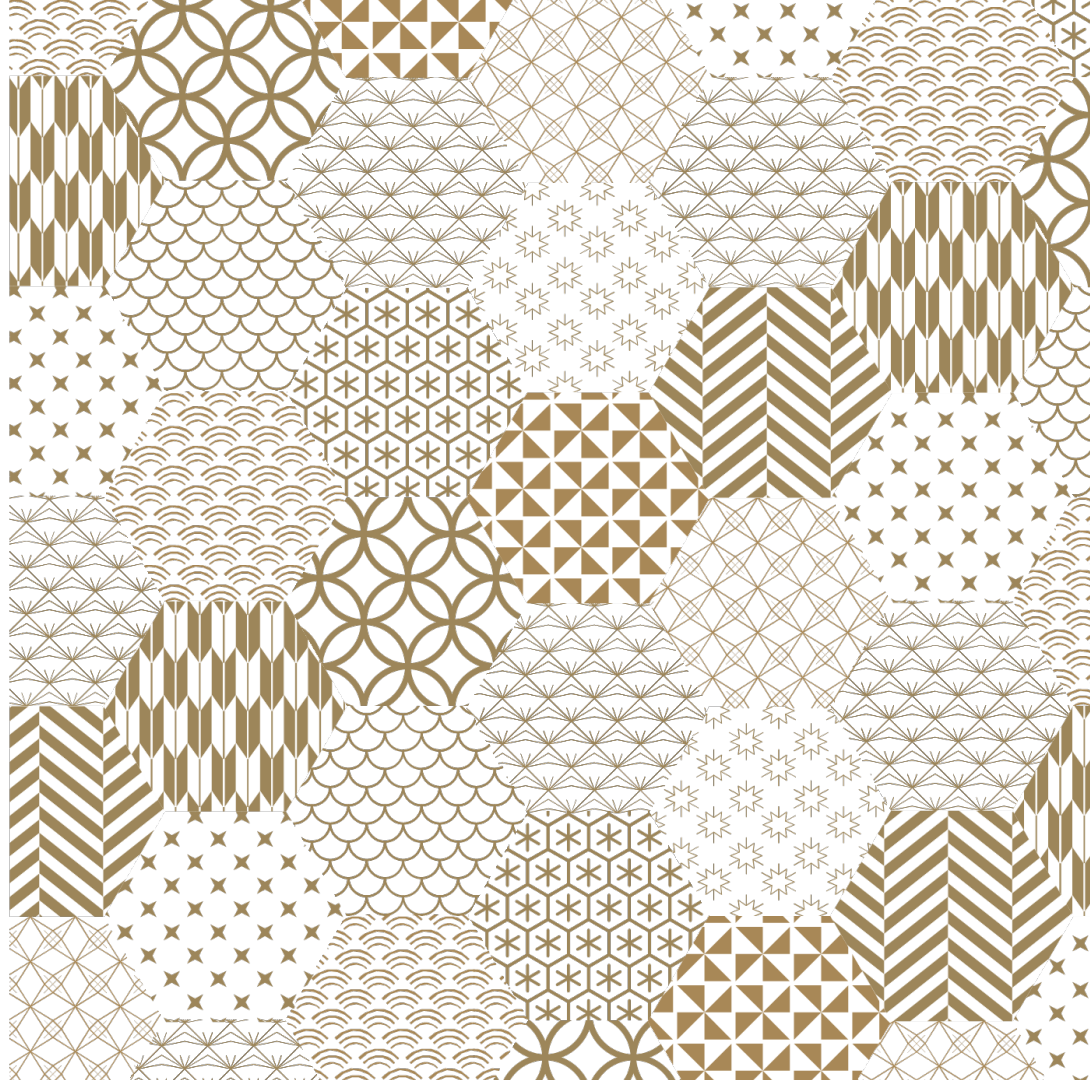
JIS K 0102規格群 制定動向

(2024年3月)



標準化で、世界をつなげる。

JSAGROUP
日本規格協会グループ SINCE 1945



JIS K 0101/JIS K 0102とは

JIS K 0101

工業用水試験方法

工業生産を営む事業所において使用する水※の試験方法を規定

※ 工場の生産過程において直接使用されるもののほか、原料容器の洗浄用、工場内部の清掃用、その他の雑用水も対象

JIS K 0102

工場排水試験方法

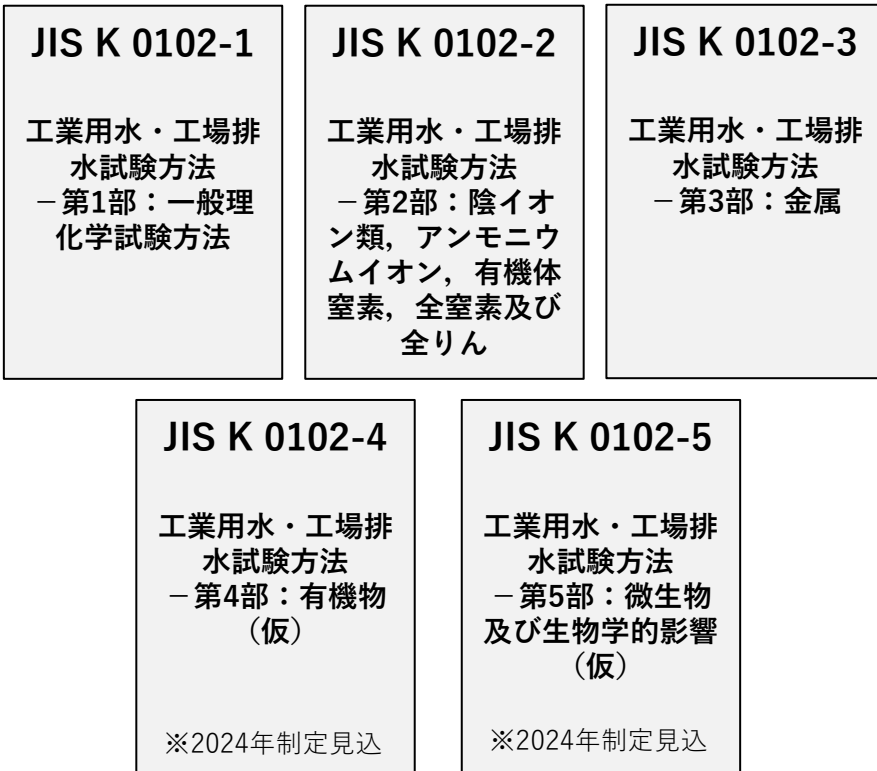
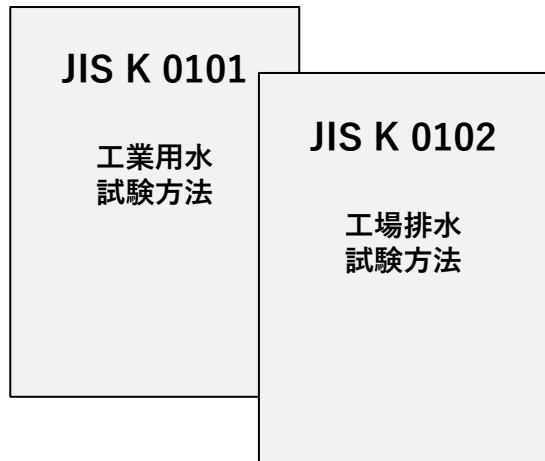
製造事業者、分析事業者、地方自治体などのユーザーを対象とした事業所から排出される水の試験方法を規定

<課題>

- 両規格は、試験項目の大半が重複。
- 両規格ともに、水質の環境基準や排水基準、土壌や廃棄物関連の規制といった類の法令に多く引用されているため、改正による法令への影響を考慮し、K0102は、2019年時点まで、備考・注を使用する“JIS Z 8301の旧様式”のままでの改正作業を継続、K0101は長年改正せず。
- 規格のボリュームにより改正作業が非常に煩雑で、技術動向に即したタイムリーな改正が困難。

JIS K 0102規格群とは

JIS K 0102規格群として2021年より順次制定



JIS K 0102規格群の制定のポイント

①規格体系を見直し、分野ごとに分冊化

● K0102-1（一般理化学試験方法）

流量、温度、外観、透視度、臭気及び臭気強度（TON）、濁度、色度、pH、電気伝導率、懸濁物質及び蒸発残留物、酸消費量、アルカリ消費量、化学的酸素消費量（COD）、生物学的酸素消費量（BOD）、有機体炭素（TOC）、全酸素消費量（TOD）、ヘキサン抽出物質、溶存酸素、全炭酸、残留塩素、塩素要求量、水酸化物イオン

● K0102-2（陰イオン類，アンモニウムイオン，有機体窒素，全窒素及び全りん）

ふっ素化合物、塩化物イオン（ Cl^- ）、よう化物イオン（ I^- ）、臭化物イオン（ Br^- ）、シアン化合物、硫化物イオン（ S^{2-} ）、亜硫酸イオン（ SO_3^{2-} ）、硫酸イオン（ SO_4^{2-} ）、アンモニウムイオン（ NH_4^+ ）、亜硝酸イオン（ NO_2^- ）、硝酸イオン（ NO_3^- ）、有機体窒素、全窒素、りん化合物及び全りん、シリカ

● K0102-3（金属）

ほう素（B）、ナトリウム（Na）、カリウム（K）、カルシウム（Ca）、マグネシウム（Mg）、銅（Cu）、亜鉛（Zn）、鉛（Pb）、カドミウム（Cd）、マンガン（Mn）、鉄（Fe）、アルミニウム（Al）、ニッケル（Ni）、コバルト（Co）、ひ素（As）、アンチモン（Sb）、すず（Sn）、ヒスマス（Bi）、クロム（Cr）、水銀（Hg）、セレン（Se）、モリブデン（Mo）、タングステン（W）、バナジウム（V）、ウラン（U）、ベリリウム（Be）、硬度

● K0102-4（有機物）（予定）

フェノール類及び p -クレゾール類、界面活性剤、農薬

● K0102-5（微生物及び生物学的影響）（予定）

細菌試験、生物影響試験

JIS K 0102規格群の制定のポイント

②JIS K 0101、JIS K 0102の備考・注を、本文又は注記に振り分け、規定を明確化

備考 13. c)の操作に準じて発色させたモリブデン青を、2,6-ジメチル-4-ヘプタノン [ジイソブチルケトン (DIBK)] で抽出することによって微量のりんを定量できる。

c) 1)～3)の操作を行った後、分解瓶中の溶液(2)を分液漏斗 100 mL に移し、分解瓶は水 10 mL で洗浄し、洗液を分液漏斗に合わせる。これにモリブデン酸アンモニウム-アスコルビン酸混合溶液 5.5 mL を加えて 20～40 ℃(4)で約 15 分間放置する。分液漏斗に 2,6-ジメチル-4-ヘプタノン 5 mL を加えて約 5 分間振り混ぜる。静置後、水層を捨て、2,6-ジメチル-4-ヘプタノン層(水滴などによる濁りがあれば、乾燥したろ紙で手早くろ過する。)の一部を吸収セルに移し、波長 640 nm 付近の吸光度を測定する。

空試験として水 50 mL を分解瓶にとり、試料の場合と同じ操作を行って吸光度を測定し、試料について得た吸光度を補正する。検量線から試料中の全りんの量を求め、次の式によって試料中の全りんの濃度 (P mg/L) を算出する。

$$P = a \times \frac{1000}{V}$$

ここに、	P : 全りんの濃度 (P mg/L)
a :	測定した全りんの質量 (mg)
V :	試料量 (mL)

検量線 a) 7)のりん標準液 (P 5 µg/mL) を 10 倍に薄めてりん標準液 (P 0.5 µg/mL) を調製し、その 1～25 mL を段階的に全量フラスコ 100 mL にとり、それぞれ水を標線まで加える。この 50 mL をそれぞれ分液漏斗 100 mL にとり、水 20 mL を加えた後、試料についてと同じ操作を行って吸光度を測定する。空試験として水 70 mL を分液漏斗 100 mL にとり、同様の操作を行って吸光度を測定し、りん標準液 (P 0.5 µg/mL) について得た吸光度を補正し、採取した溶液 50 mL 中のりん (P) の量と吸光度との関係線を作成する。

18.4.5 モリブデン青吸光度分析法 (溶媒抽出法)

18.4.5.1 概要

18.4.1, 18.4.2 又は 18.4.3 の分解操作を行った後、分解液中のりん酸イオンを 18.4.4.4 a) の操作に準じてモリブデン青とし、2,6-ジメチル-4-ヘプタノン [ジイソブチルケトン (DIBK)] で抽出し、微量の全りんを定量する。

定量範囲 : P 0.25 µg～P 6.25 µg, 繰返し精度 : 2 %～10 %

18.4.5.2 試案

- a) 水 JIS K 0557 に規定する A3 の水
- b) アスコルビン酸溶液 (72 g/L) 18.2.1.2 b) による。
- c) モリブデン酸アンモニウム溶液 18.2.1.2 c) による。
- d) モリブデン酸アンモニウム-アスコルビン酸混合溶液 18.2.1.2 d) による。
- e) りん標準液 (P 0.5 mg/L) 18.4.4.2 f) による。
- f) 2,6-ジメチル-4-ヘプタノン [ジイソブチルケトン (DIBK)]

18.4.5.3 器具及び装置

- a) 光度計 分光光度計又は光電光度計
- b) 分液漏斗 100 mL のもの

18.4.5.4 操作

- a) 18.4.1.4 a) 4), 18.4.2.3 又は 18.4.3.3 で得られた分解液を、分液漏斗 100 mL に移し、18.4.1.4 a) 4) の分解瓶、18.4.2.3 g) の全量フラスコ又は 18.4.3.3 e) の全量フラスコを水 10 mL で洗浄し、洗液を分液漏斗に合わせ、水を分液漏斗の 70 mL の印まで加える 3002
- b) モリブデン酸アンモニウム-アスコルビン酸混合溶液 5.5 mL を加えて 20 ℃～40 ℃で約 15 分間静置する。

JIS K 0102規格群の制定のポイント

③有害物質を使用する試験方法、近年使用されていない試験項目の見直し

例：JIS K 0102-2の場合

附属書へ 移行した 試験項目	JIS K 0102のふっ素化合物、塩化物イオン及びシアン化合物で規定されていたイオン電極を用いた電位差滴定法（使用実績がないため）
	JIS K 0101の塩化物イオンの試験方法に規定されていたチオシアン酸水銀（Ⅱ）吸光光度法（有害試薬を用いることからJIS K 0102では既に廃止されているため。将来的には廃止する方針。）
削除した 試験項目	JIS K 0101の塩化物イオンの試験方法に規定されていた硝酸水銀（Ⅱ）滴定法（試薬に有害物質である硝酸水銀（Ⅱ）を使用するため）
	JIS K 0101のりん酸イオンの試験方法に規定されていたモリブデン青〔塩化すず（Ⅱ）還元〕吸光光度法〔モリブデン青（アスコルビン酸還元）吸光光度分析法で代替が可能のため〕
	JIS K 0101のイオン状シリカの試験方法に規定されていたモリブデン青抽出吸光光度法（需要も低く、1-ブタノールを使用するため）
	JIS K 0102の全窒素の試験方法に規定されていた硫酸ヒドラジニウム還元法（近年使用実績が確認されなかったため）

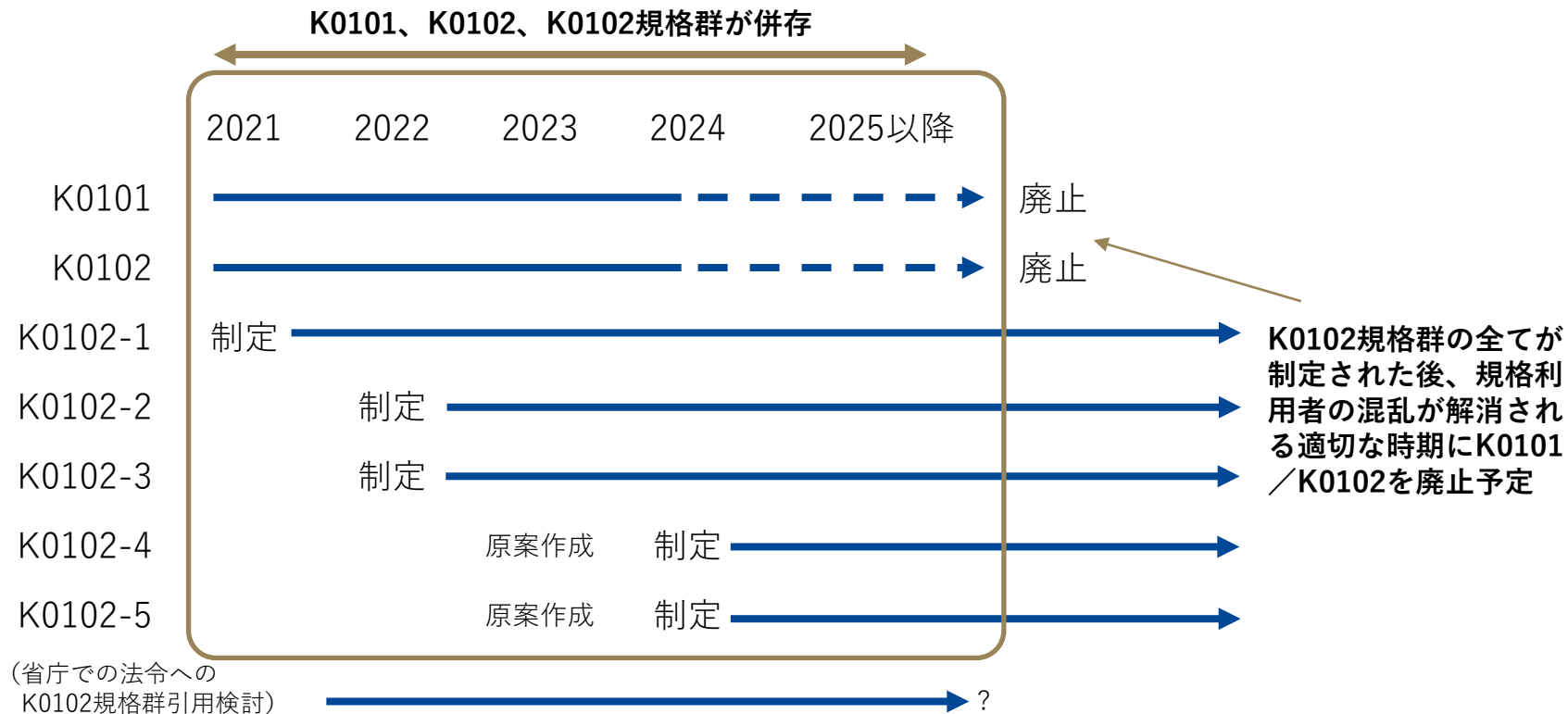
JIS K 0102規格群の制定のポイント

④ JIS K 0102だけに規定されていた方法の工業用水への適用拡大の検討

例：流れ分析法、イオンクロマトグラフィー、ICP発光分光分析法

JIS K 0102では採用されているが、JIS K 0101は長年見直しが行われていなかったため一部の項目で採用されていなかった。そのため、JIS K 0102規格群の制定にあたって、工業用水の試験方法としてもこれらの試験方法を適用できるように見直しを実施。

JIS K 0102規格群制定に関するタイムライン



JIS K 0101/JIS K 0102廃止による他規格への影響

- JIS K 0101/JIS K 0102引用JIS :
117規格 (2024年2月時点)
- 部門別の内訳 :
A : 7規格、B : 11規格 (内1規格はTS) 、C : 2規格、G : 2規格、H : 1規格、K : 75規格、
L : 3規格、M : 2規格、R : 6規格、S : 3規格、T : 1規格、Z : 4規格
- 廃止による影響 :
 - ー 引用JISが廃止となるため、当該規格の要求事項が成立しない可能性がある。
 - ー 規格利用者の混乱 (K0101/K0102に代わるK0102規格群の該当箇所はどこ?)

JIS K 0102規格群の引用への切り替えの検討を。

参考資料：K0101／K0102引用JIS（A部門）

規格番号	規格名称	原案作成団体1	原案作成団体2
JIS A 1144:2010	フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法	公益社団法人 日本コンクリート工学会	
JIS A 1231:2023	地盤材料の溶出特性を求めるための上向流カラム通水試験方法	公益社団法人 地盤工学会	国立研究開発法人 産業技術総合研究所
JIS A 1501:2021	樹脂製建具のメタルハイドランプによる促進耐候性試験方法	一般社団法人 日本サッシ協会	塩ビ工業・環境協会
JIS A 4110:1989	ガラス繊維強化ポリエステル製一体式水槽	一般社団法人 強化プラスチック協会	
JIS A 5011-3:2016	コンクリート用スラグ骨材―第3部：銅スラグ骨材	日本鉱業協会	
JIS A 5015:2018	道路用鉄鋼スラグ	鉄鋼スラグ協会	
JIS A 9011:2020	木質材料の難燃薬剤処理方法	不燃化技術研究組合	

参考資料：K0101／K0102引用JIS（B部門）

規格番号	規格名称	原案作成団体1	原案作成団体2
JIS B 7921:2016	蛍光式酸素濃度計	一般財団法人 日本規格協会	
JIS B 8224:2022	ボイラの給水、ボイラ水及び蒸気の質—試験方法	一般社団法人 火力原子力発電技術協会	
JIS B 9910:1994	集じん装置の性能測定方法	一般社団法人 日本産業機械工業会	
JIS B 9914:1981	ガス処理装置の性能測定方法	一般社団法人 日本産業機械工業会	
JIS B 9940:1987	pH調節装置の試験方法	一般社団法人 日本産業機械工業会	
JIS B 9941:1987	沈降分離装置の試験方法	一般社団法人 日本産業機械工業会	
JIS B 9942:1987	清澄ろ過装置の試験方法	一般社団法人 日本産業機械工業会	
JIS B 9943:1987	浮上分離装置の試験方法	一般社団法人 日本産業機械工業会	
JIS B 9944:1987	活性汚泥処理装置の試験方法	一般社団法人 日本産業機械工業会	
JIS B 9945:1987	脱水ろ過装置の試験方法	一般社団法人 日本産業機械工業会	
TS B 0038:2020	ファインバブル技術—植物工場におけるファインバブル発生システムの成長促進性能試験方法—レタス	一般社団法人 ファインバブル産業会	

参考資料：K0101／K0102引用JIS（C部門）

規格番号	規格名称	原案作成団体1	原案作成団体2
JIS C 62282-3-200:2019	燃料電池技術—第3－200部：定置用燃料電池発電システム—性能試験方法	一般社団法人 日本電機工業会	
JIS C 62282-3-201:2019	燃料電池技術—第3－201部：定置用燃料電池発電システム—小形定置用燃料電池発電システムの性能試験方法	一般社団法人 日本電機工業会	

参考資料：K0101／K0102引用JIS（G部門）

規格番号	規格名称	原案作成団体1	原案作成団体2
JIS G 0593:2002	水処理剤の腐食及びスケール防止評価試験方法	ステンレス協会	
JIS G 2404:2022	鉄鋼用アルミニウムドロス分析方法	一般社団法人 日本アルミニウム協会	

参考資料：K0101／K0102引用JIS（H部門）

規格番号	規格名称	原案作成団体1	原案作成団体2
JIS H 8502:1999	めっきの耐食性試験方法	一般社団法人 表面技術協会	

参考資料：K0101／K0102引用JIS（K部門）

規格番号	規格名称	原案作成団体1	原案作成団体2
JIS K 0058-1:2005	スラグ類の化学物質試験方法―第1部：溶出量試験方法	一般財団法人 化学物質評価研究機構	
JIS K 0058-2:2005	スラグ類の化学物質試験方法―第2部：含有量試験方法	一般財団法人 化学物質評価研究機構	
JIS K 0093:2006	工業用水・工場排水中のポリクロロビフェニル（PCB）試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0094:1994	工業用水・工場排水の試料採取方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0100:1990	工業用水腐食性試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0101:1998	工業用水試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0102:2016	工場排水試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0111:1983	ポーラログラフ分析のための通則	一般社団法人 日本分析機器工業会	
JIS K 0121:2006	原子吸光分析通則	一般社団法人 日本分析機器工業会	
JIS K 0125:2016	用水・排水中の揮発性有機化合物試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0128:2000	用水・排水中の農薬試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0170-1:2019	流れ分析法による水質試験方法―第1部：アンモニア体窒素	一般社団法人 日本環境測定分析協会	
JIS K 0170-2:2019	流れ分析法による水質試験方法―第2部：亜硝酸体窒素及び硝酸体窒素	一般社団法人 日本環境測定分析協会	
JIS K 0170-3:2019	流れ分析法による水質試験方法―第3部：全窒素	一般社団法人 日本環境測定分析協会	
JIS K 0170-4:2019	流れ分析法による水質試験方法―第4部：りん酸イオン及び全りん	一般社団法人 日本環境測定分析協会	
JIS K 0170-5:2019	流れ分析法による水質試験方法―第5部：フェノール類	一般社団法人 日本環境測定分析協会	
JIS K 0170-6:2019	流れ分析法による水質試験方法―第6部：ふっ素化合物	一般社団法人 日本環境測定分析協会	
JIS K 0170-7:2019	流れ分析法による水質試験方法―第7部：クロム（VI）	一般社団法人 日本環境測定分析協会	
JIS K 0170-8:2019	流れ分析法による水質試験方法―第8部：陰イオン界面活性剤	一般社団法人 日本環境測定分析協会	
JIS K 0170-9:2019	流れ分析法による水質試験方法―第9部：シアン化合物	一般社団法人 日本環境測定分析協会	
JIS K 0222:2022	排ガス中の水銀分析方法	一般社団法人 産業環境管理協会	

参考資料：K0101／K0102引用JIS (K部門)

規格番号	規格名称	原案作成団体1	原案作成団体2
JIS K 0350-10-10:2002	用水・排水中の一般細菌試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0350-20-10:2001	用水・排水中の大腸菌群試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0350-30-10:2002	用水・排水中の従属栄養細菌試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0350-40-10:2002	用水・排水中の全細菌試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0350-50-10:2006	工業用水・工場排水中のレジオネラ試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0350-60-10:2005	工業用水中の硫酸塩還元菌試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0350-70-10:2005	工業用水中のスフェロチルス試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0350-80-10:2005	工業用水中の鉄細菌試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0350-90-10:2005	工業用水中の硫黄細菌試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0450-10-10:2006	工業用水・工場排水中のビスフェノール A 試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0450-20-10:2006	工業用水・工場排水中のアルキルフェノール類試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0450-30-10:2006	工業用水・工場排水中のフタル酸エステル類試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0450-40-10:2004	用水・排水中のアジピン酸ビス（2-エチルヘキシル）試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0450-50-10:2004	用水・排水中のベンゾフェノン試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0450-60-10:2007	工業用水・工場排水中の4-ノニルフェノールの異性体別試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	国立研究開発法人 産業技術総合研究所
JIS K 0450-70-10:2011	工業用水・工場排水中のペルフルオロオクタンスルホン酸及びペルフルオロオクタン酸試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	国立研究開発法人 産業技術総合研究所
JIS K 0550:1994	超純水中の細菌数試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0551:1994	超純水中の有機体炭素（TOC）試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0552:1994	超純水の電気伝導率試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0553:2002	超純水中の金属元素試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0554:1995	超純水中の微粒子測定方法	公益社団法人 日本空気清浄協会	
JIS K 0555:1995	超純水中のシリカ試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0556:1995	超純水中の陰イオン試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0557:1998	用水・排水の試験に用いる水	一般社団法人 産業環境管理協会	
JIS K 0558:2002	超純水中のほう素試験方法	一般社団法人 産業環境管理協会	

参考資料：K0101／K0102引用JIS（K部門）

規格番号	規格名称	原案作成団体1	原案作成団体2
JIS K 0801:1986	濁度自動計測器	一般社団法人 日本電気計測器工業会	
JIS K 0803:1995	溶存酸素自動計測器	一般社団法人 日本電気計測器工業会	
JIS K 0805:1988	有機体炭素（T O C）自動計測器	一般社団法人 日本電気計測器工業会	
JIS K 0806:1997	化学的酸素消費量（C O D）自動計測器	一般社団法人 日本電気計測器工業会	
JIS K 0807:1997	水質監視用紫外線吸光度自動計測器	一般社団法人 日本電気計測器工業会	
JIS K 0808:2008	水質監視用全窒素自動計測器	一般社団法人 日本電気計測器工業会	
JIS K 0809:2008	水質監視用全りん自動計測器	一般社団法人 日本電気計測器工業会	
JIS K 0901:1991	気体中のダスト試料捕集用過材の形状、寸法並びに性能試験方法	公益社団法人 日本空気清浄協会	
JIS K 1474:2014	活性炭試験方法	日本無機薬品協会	
JIS K 1478:2009	人工ゼオライトの陽イオン交換容量（C E C）測定方法	一般財団法人 日本規格協会	
JIS K 1570:2010	木材保存剤	公益社団法人 日本木材保存協会	
JIS K 2190:2011	燃料用エタノール	石油連盟	
JIS K 3362:2008	家庭用合成洗剤試験方法	日本石鹼洗剤工業会	
JIS K 3363:1990	合成洗剤の生分解度試験方法	日本石鹼洗剤工業会	
JIS K 3602:1990	微生物電極による生物化学的酸素消費量（B O D s）計測器	一般財団法人 バイオインダストリー協会	独立行政法人 製品評価技術基盤機構
JIS K 3805:1990	逆浸透エレメント及びモジュールの性能試験方法	一般財団法人 日本規格協会	
JIS K 3821:1990	限外ろ過モジュールの純水透水性試験方法	一般財団法人 日本規格協会	
JIS K 3823:2012	限外ろ過モジュールの細菌阻止性能試験方法	一般社団法人 膜分離技術振興協会	
JIS K 3824:2012	限外ろ過モジュールのエンドトキシン阻止性能試験方法	一般社団法人 膜分離技術振興協会	
JIS K 3831:1990	精密ろ過膜エレメント及びモジュールの初期流量試験方法	一般財団法人 日本規格協会	
JIS K 3832:1990	精密ろ過膜エレメント及びモジュールのバブルポイント試験方法	一般財団法人 日本規格協会	
JIS K 3833:1990	精密ろ過膜エレメント及びモジュールの拡散流量試験方法	一般財団法人 日本規格協会	
JIS K 3835:1990	精密ろ過膜エレメント及びモジュールの細菌捕捉性能試験方法	一般財団法人 バイオインダストリー協会	独立行政法人 製品評価技術基盤機構

参考資料：K0101／K0102引用JIS（K部門）

規格番号	規格名称	原案作成団体1	原案作成団体2
JIS K 5601-4-1:2012	塗料成分試験方法—第4部：塗膜からの放散成分分析—第1節：ホルムアルデヒド放散量の求め方	一般社団法人 日本塗料工業会	
JIS K 6726:1994	ポリビニルアルコール試験方法	酢ビ・ポパール工業会	
JIS K 6952:2008	プラスチック—パイロットスケールにおける規定されたコンポスト化条件下でのプラスチック材料の崩壊度の求め方	日本バイオプラスチック協会	日本プラスチック工業連盟
JIS K 6953-1:2011	プラスチック—制御されたコンポスト条件下の好氣的究極生分解度の求め方—発生二酸化炭素量の測定による方法—第1部：一般的方法	日本バイオプラスチック協会	日本プラスチック工業連盟
JIS K 6953-2:2010	プラスチック—制御されたコンポスト条件下の好氣的究極生分解度の求め方—発生二酸化炭素量の測定による方法—第2部：実験室規模における発生二酸化炭素の質量測定方法	日本バイオプラスチック協会	日本プラスチック工業連盟
JIS K 6960:2008	プラスチック—高固形物濃度嫌氣的消化条件での嫌氣的究極生分解度の求め方—発生バイオガスの分析による方法	日本バイオプラスチック協会	日本プラスチック工業連盟

参考資料：K0101／K0102引用JIS（L部門）

規格番号	規格名称	原案作成団体1	原案作成団体2
JIS L 1091:1999	繊維製品の燃焼性試験方法	一般社団法人 繊維評価技術協議会	
JIS L 1930:2014	繊維製品の家庭洗濯試験方法	一般社団法人 繊維評価技術協議会	
JIS L 1931-4:2014	繊維製品の商業クリーニング第4部：ウェットクリーニング試験方法	一般社団法人 繊維評価技術協議会	

参考資料：K0101／K0102引用JIS（M部門）

規格番号	規格名称	原案作成団体1	原案作成団体2
JIS M 0201:1974	選炭廃水試験方法	一般財団法人 石炭エネルギーセンター	
JIS M 8818:1986	石炭類の鉍物質定量方法	一般財団法人 石炭フロンティア機構	

参考資料：K0101／K0102引用JIS（R部門）

規格番号	規格名称	原案作成団体1	原案作成団体2
JIS R 1701-1:2016	ファインセラミックスー光触媒材料の空気浄化性能試験方法ー第1部：窒素酸化物の除去性能	一般社団法人 日本ファインセラミックス協会	国立研究開発法人 産業技術総合研究所
JIS R 1708:2016	ファインセラミックスー半導体光触媒材料の溶存酸素消費量による光触媒活性測定方法	一般社団法人 日本ファインセラミックス協会	国立研究開発法人 産業技術総合研究所
JIS R 1751-1:2013	ファインセラミックスー可視光応答形光触媒材料の空気浄化性能試験方法ー第1部：窒素酸化物の除去性能	一般社団法人 日本ファインセラミックス協会	
JIS R 3254:1995	ふっ化物ガラスの化学的耐久性試験方法	一般社団法人 ニューガラスフォーラム	
JIS R 3301:2014	路面標示塗料用ガラスビーズ	日本ガラスビーズ協会	
JIS R 9111:2015	陶磁器型材用せっこう	無機マテリアル学会	

参考資料：K0101／K0102引用JIS（S部門）

規格番号	規格名称	原案作成団体1	原案作成団体2
JIS S 3106:1994	家庭用除湿剤	独立行政法人 製品評価技術基盤機構	
JIS S 3242:2019	家庭用逆浸透膜浄水器	一般社団法人 浄水器協会	
JIS S 6016:1991	スタンプ台	一般社団法人 東京文具工業連盟	

参考資料：K0101／K0102引用JIS（T部門）

規格番号	規格名称	原案作成団体1	原案作成団体2
JIS T 0304:2002	金属系生体材料の溶出試験方法	一般財団法人 日本規格協会	

参考資料：K0101／K0102引用JIS（Z部門）

規格番号	規格名称	原案作成団体1	原案作成団体2
JIS Z 0312:2016	ブラスト処理用非金属系研削材	一般社団法人 日本防錆技術協会	
JIS Z 0313:2004	素地調整用ブラスト処理面の試験及び評価方法	一般社団法人 日本防錆技術協会	
JIS Z 2382:1998	大気環境の腐食性を評価するための環境汚染因子の測定	一般財団法人 日本ウエザリングテストセンター	
JIS Z 7302-5:2002	廃棄物固化燃料—第5部：金属含有量試験方法	一般財団法人 化学研究評価機構	